

令和 7 年度 第 1 回美術館運営協議会会議録

1 日 時 令和 7 年 7 月 24 日（木） 午後 2 時 00 分～午後 3 時 10 分

2 開催場所 豊田市美術館 高橋節郎館 ワークショップルーム

3 出席者

〔委員〕

正村美里 高橋綾子 浅井一広 岩田雅子 平野敬一 加納里美 吉留亜弥 木下優紀
山田百合子 茂木明子 （以上 10 名） ※欠席者なし

〔事務局〕

成瀬文浩 高橋秀治 塚田恵理子 安川和博 都筑正敏 鈴木俊晴 成瀬美幸 大原右子
大柳良輔 （以上 9 名）

4 会議の経過

美術・博物部副部長あいさつ、事務局から委員紹介及び任期の説明、会長あいさつが行われた。その後、正村会長が出席委員の確認を行い会議の成立が報告され、その後、議事録署名人として、会長自らを含む 2 名（高橋委員）を指名した。続いて、令和 6 年度の実績を報告した後、各委員より意見を聴取した。

5 会議内容

事務局

（1）令和 6 年度開催展覧会の実績報告、教育普及事業、収集作品及び貸出作品について
資料 1、資料 2-1～2-5 を用いて説明

委員

交流館勤務者として教育普及に関心がある。美術館では絶えずイベントや講演会を実施しており、どのイベントも参加者が多い。参加者はイベントに興味を持って参加するのか、それとも美術館が好きで参加しているのか。

事務局

イベントには大きく 2 種類あり、特定の展覧会や出品作家にひもづくものと、アウトリーチ活動、ガイドボランティアによるコレクションの作品ガイド及びお庭でマルシェなど、美術館の活動に緩やかな関心を持つ方向けのイベントがありグラデーションを持たせている。

委員

美術館の建物をはじめ、様々な切り口でイベントを行っていることが分かった。

委員

博学連携プログラムについて、自分が子どもの頃はこのような取組はなかったが、現在のよ

うに学校教育の一環として美術館に来館してもらうことで、子どもの将来にマイナスになることはないと思う。美術館という親以外の存在が子どもに刺激を与えてくれることは素晴らしい。また、その子どもが親になった時、自分の子どもを美術館に連れていけばなお良いと思う。

事務局

博学連携プログラムのような児童生徒を受入れる取組は、2000年から2011年ごろまで行っており、美術館とプラネタリウムを一緒に見てもらったことがあった。リーマンショックで取りやめとなってしまった。

会長

春秋に遠足として公立美術館に来ることはままあるが、博学連携プログラムとの違いは交通手段がバスである点か。

事務局

山間部の学校などは遠いので、バスで来る。学校単位で来館してもらうことはそうそうないこと。豊田市内の全ての小学6年生、中学2年生が博物館を訪れ、その中で美術館に来館したい学校に手を挙げてもらっているが、3分の1ほどの学校が美術館へ来てもらっている。

事務局

博学連携プログラムは授業の一環として来ることが特徴で、博物館では具体的な教科とひもづけて内容を練っており、美術館もその手法に倣っている。1月前くらい前に学校の先生、博物館、美術館の3者でどんなことを生徒に学んでほしいかなど打合せしている。

会長

学校によってプログラムが異なるのか。

事務局

具体的な希望を出してくる学校や、美術館に任せる学校まで様々である。プログラムによって博物館と関連を持たせている。

館長

美術館に茶室があり、お茶体験をした中学生から好評いただいた。美術館の本館ではなく周辺施設を利用してもらうケースも増えており、ありがたい。

委員

博学連携について、小坂自治区との関連だと中学校は朝日丘中学校、崇化館中学校、小学校は童子山小学校、衣丘小学校、朝日小学校が該当するが、博学連携プログラムに参加した学校は朝日小学校しかない。地元住民向けの内覧会に小坂自治区から多くの区民が参加したが、初めて美術館に行ったという人が多かった。自宅が美術館の近所だと、逆に行ってみようという気持ちにならないのか不思議である。

事務局

博学連携プログラムは博物館を拠点として様々なプログラムがあり、学校の方針と合わずたまたま美術館を訪れていないだけという可能性もある。小中学生は無料で利用できるのも、学校が終わった後に来てもらいたい。

委員

私は博物館の運営委員でもあるが、市長と話をするとうちに素晴らしい施設があるので博物館、美術館に来てくださいと言われる。浅井委員からも、校長会で PR していただきたい。

委員

博学連携プログラムは学校の授業で来館する点がとても良いと感じる。同じ施設で同じ作品を鑑賞しても、家族と観る時とクラスメイトと一緒に観ることで違った刺激をもらえると思う。こういった機会をぜひ増やしてほしい。

委員

私が校長を務める巴ヶ丘小学校は三河湖の近くであり、美術館までのバスが出ることがあるがたい。多くの学校を博学連携プログラムに組み込み美術館への来館を増やす方法は、検討したい。

委員

崇化館中学校の PTA の副会長をしているが、朝日丘中学校だと特別支援学級があり、崇化館中学校でも同様の取組ができないかと思っている。PTA は縮小傾向にあり、先生が多忙でも PTA や PTCA で活用していきたい。

事務局

博学連携プログラムの中で近隣の学校の参加率が低いように見える点について、近隣の学校と美術館は部活動などで密な活動をしている。例えば、朝日丘中学校が 9 月と 11 月の 2 回、国語の授業として美術館へ来館し、一緒に授業を組み立て、中学生に作品の感想文を書いてもらい展示室で配布する取組を行った。

委員

美術館の設計者である谷口吉生氏に関連するイベントを実施してほしい。美術館の建物は本当に素敵で、子どもと一緒に庭園などを散歩すると子どもも建物に興味を持ってくれる。

事務局

谷口氏のご存命の頃、一度だけ大きな展覧会を行ったことがある。

委員

モネ展について、西洋美術館では楕円の部屋があったが豊田展では楕円ではなかったことが残念。モネは時間の流れを大事にしていたので、展示室もそういったものを連想させる設えが

良いと思う。

委員

教育普及の話題以外として、美術館が開館 30 周年という点に感銘を受ける。30 年というと、美術館ができた時に小学生ぐらいで親に連れてきてもらった子どもが、今親になって同じぐらいの年齢の子どもをここに連れてくるという年回りで、世代がひとつ交代するほどの時間である。

昨年度は脱コロナ、30 周年へ向けた取組があるなかで、企画展 4 本を開催することはすごいことだと思う。その中で、玉山拓郎展は鑑賞後に思わず誰かにしゃべりたくなる作品だったからこそ、アンケートが長くなっているのではないかと。玉山氏が 30 代半ばで公立美術館の個展に大抜擢されたことについて、実績報告の総括に「まだ評価の定まっていない」という表現があるが、かなり評価が定まってきたステージに入ったと思う。一步間違えると大暴投になってもおかしくない作品プランを立派な企画展に昇華させたのは、美術館建築に精通した学芸員の成果だと思う。

玉山拓郎展以外に、30 周年という点から考えると所蔵品である黒田辰秋や宮脇綾子の展示も重要である。宮脇綾子は東京ステーションギャラリーでもフォーカスされ、全国区の知名度になった。黒田辰秋展は 2000 年に自分が観た際、彫刻や造形として鑑賞した。現在は民芸への人々の関心も高まっており、さらに民芸館の活動もあり、2024 年から 2025 年に行われるだけの蓄積が生かされたと思う。昨年度の展覧会はバランスが良かった。

アンケートではスタッフの対応の良さを褒めている。代々の館長がホスピタリティを大切にした成果だと思う。年齢層が高い展覧会だと休憩場所の少なさに関する意見が散見されるが、脱コロナ施策としてアウトリーチ活動は素晴らしいと思う。

委員

モネ展での地元内覧会の実施に感謝する。初めて来館した区民、感銘を受けた区民もいた。区長としても美術館への来館を勧めている。なお、モネ展に関して自治区の評議員からマイナスな意見は何も出ていない。近隣住民に様々な配慮いただき、感謝する。

挙母祭りの際には協力をお願いしたい。樹木自治区が、小坂自治区のエリア内で山車を走らせるため様々な意見が出た。また、山車を美術館の丸池まで入れる場合、バリカーから丸池までの木を切らなければいけないが、建築に携わった人からは切りたくない意見がある一方で、木が生い茂っているので切るべきだという意見もある。

委員

SNS について、美術館の X は職員が投稿しているか。

事務局

職員である。

委員

モネ展の駐車場情報など、とても有用で効果があると思うので SNS 発信は続けてほしい。

一方で、毎日「駐車場が満車です。」と発信されると、行こうという気持ちが萎えることがあり難いと思う。しかし、夕方は混雑緩和しているなど、リアルタイムな空車情報も発信しているので、非常にありがたい。負担だと思いが続けてほしい。

会長

様々な意見が出たが、全体をとおして何か意見があればお願いしたい。

委員

スタッフの素晴らしい対応に感動した。玉山拓郎展でスタッフから「カーペットを触っていいよ」と言ってもらえた。子どもが鑑賞するだけでなく、体感する空間を楽しめたのが良かった。また、高橋節郎展でスタッフが展覧会の魅力を語ってくれた。

新収蔵品展でインスタライブをやったが、あのような配信は今後もやるのか。また、チケットに替わるリストバンドの運用は今後も続けるのか。

事務局

新収蔵品展では学芸員が解説をしたので特に問題なかったが、展覧会によっては作家の許可など色々な事情が絡むので、そういったものをクリアできれば継続する。リストバンドについては、チケット運用全体を含めて検討していく。

委員

娘がデジタルのイラストを描くことが好きだが、モネの色彩感覚は美しく学ぶものがあつた。アニメのイラストレーターが描く絵と、モネのような古典美術、現代美術は断絶するものではないと思う。娘のように若い子どもが鋭い色彩感覚を活かして、モネからインスピレーションを受けてほしい。自閉症などの子は独特の色彩感覚を持っており、特別支援学級向けのパッケージツアー、美術部との連携など、博学連携プログラム以外に展覧会内容とリンクする企画があればうれしい。

会長

博学連携プログラム、地元の方々からの熱い思い、モネ展での駐車場・混雑対策など美術館の様々な取組及び工夫がうかがえた。また、SNS はどの館でも活用しているが混雑状況などをリアルタイムに発信する良いツールだと思う。本日は様々な意見が出たので、今後の運営に活かしてほしい。豊田市美術館、豊田市博物館が大きな発信力を持つ文化ゾーンになったので、取組が注目され、良い意見だけでなく反対意見も出る中で、それでも来館して良かったと思う方がたくさんいるのは、美術館の努力だと思う。

【高橋館長あいさつ】

会長

最後に、美術館運営に関してこれだけたくさんの業務量をこなしていくのは大変だと思う。引き続き予算及び人員の強化に関して要望を続けてほしい。また、博学連携プログラムについ

て名前が固い印象を受けるので、他の普及事業のように柔らかい名称にすれば、美術館独自の特性が出るのでは。

以上で協議事項を終了する。

会議録署名者

会長 正村 美里
.....

委員 高橋 綾子
.....